～本院泌尿器科で腎移植術を行った患者様へ～

研究実施のお知らせ

研究課題名：左室拡張障害が腎移植術後経過に与える影響についての検討

研究の目的：

腎移植を受けられる末期腎不全患者さんは心機能が低下していることが多く、腎移植の術後にうっ血性心不全などの合併症を引き起こすことがしばしばみられます。腎不全の患者さんにおこる心不全の多くは左室拡張障害（心臓が広がりにくい）が原因と言われておりますが、拡張障害の評価をするには、以前は心臓カテーテル検査をするしかありませんでした。しかし最近になり、心エコーにより左室拡張障害の有無を評価する方法が考案され普及しつつあります。われわれ泌尿器科などの外科系診療科においてはまだ認知度が低く、左室拡張障害が術後経過に与える影響はまだ解明されておりません。そこで今回、心エコー検査によって判断した左室拡張障害の有無が、術後の経過にどのような影響を与えるかについて検討するため、研究を計画しました。

研究の方法：

　　本研究では、2010年1月1日から2015年8月31日までに当科で行った腎移植術を受けられた患者さんを、心エコーにて得られるE/e’値（左室拡張機能を表す値)によって非障害群(E/e’<8)、境界群(8≦E/e’≦13)、障害群(E/e’>13)の3群に分け、経過記録や胸部レントゲン検査から各群における周術期経過を比較いたします。本研究は医学倫理審査委員会の審査を受け、病院長の承認を得て実施され、診療情報(カルテ）を参照する形で行いますので、患者さんに直接調査へのご協力をお願いすることはありません。

予想される利益・不利益：

利益：左室拡張障害の有無による術後経過の相違が明らかになれば、左室拡張障害を持った患者さんに対しては、術後の体液管理をより厳格に行うことにより、うっ血性心不全という重篤な合併症の発生を回避することができます。

不利益：連結可能匿名化しプライバシーが保護されるように配慮しますが、不利益として、患者さんの検査データという個人情報が漏れる可能性があります。

プライバシーの保護：

本研究では、個人ごとに任意の番号を与え、連結可能匿名化した情報がデータ入力する際に使用されるため、名前および住所など個人の特定につながるような情報は取得されません。また研究結果をまとめて専門の学会や学術雑誌に発表される事がありますが、患者さんのプライバシーは保護されます。ご自分が研究対象に該当していても参加を希望しない場合は2016年2月29日までに申し出てください。参加を希望されない場合でも，今後の治療に支障をきたすことはありません．

ご不明の点や、ご心配なことがありましたら、金沢大学附属病院泌尿器科にご相談ください。

金沢大学附属病院泌尿器科　野原　隆弘

電話 076-265-2393　E-mail: urology@med.kanazawa-u.ac.jp